

検効力はかなり小さい事が Halo-Test により判明した。この原因を究明する為ガスクロマトグラフィーにより、PCP処理布および処理液よりPCPを検出定量し、経日変化、耐光性、耐洗性について再検討を行なった。

2. PCP処理した布を風乾後、約1gを精秤し、10%硫酸少量を加えて酸性とし、分液ロート中でBenzene 15 ml, 15 ml, 20 ml で抽出した。抽出液は脱水芒硝により乾燥した後溶媒を留去し、Benzeneに溶解して4mlとし、Aldrin (5 µg/ml) 1 mlを内部標準として加え、ECDによりガスクロマトグラフを行なった。

条件、カラム：ガラス 1m

液相：Silicon DC 11 5%

担体：Chromosorb G (AW-DMCS)

温度：カラム 160°C

検出器 175°C

キャリアー流量：N₂ 50 ml/min

3. 処理直後の布においてはかなりのPCPが検出されたが、室内で風乾した場合、高濃度処理布では黄変が生じ、風乾中にPCPはかなり分解している事がわかり理論量の4.3%を検出したにすぎない。

B-38 被服の防黴加工に関する研究 —PCP処理布の耐久性について—

愛知淑徳短大 ○古田 幸子
栗原ひろ子

1. 黴、細菌、酵素その他の微生物に対して毒性が強く、布の防黴剤としても利用されている Pentachlorophenol (PCP)は、有機水銀系剤、有機錫系剤等に比べ防